

佐婆部首、今牛養幸籍所來、獲免負擔雲雨之施、更無所望、但在官命氏、因土賜姓、行諸往古傳之來、今其牛養等居處在寒川郡岡田村、臣望賜岡田臣之姓、於是牛養等戶二十烟依請賜之、

〔源平盛衰記<sup>八</sup>〕讚岐院事

鳥羽院ノ北面ニ佐藤兵衛尉義清ト云シ者、道心ヲ發シ、出家入道シテ西行法師ト云ケルガ、大法房圓意ト改名シテ、去仁安二年ノ冬ノ比、諸國修行シケルガ、○中讚岐國ヘ入テ松山ノ津ト云所ニ行ヌ、コ、ハ新院○崇流サレテワタラセ給ヒケル所ゾカシト思出シ、○下

〔新葉和歌集<sup>七</sup>〕讚岐の國松山といふ所にゆきつきて、月日を送り侍りしに、入道大納言爲世の

許より、松山は心つくしにありとても名をのみき、て見ぬぞ悲しきと申し送りて侍りし返事に、  
宗良親王

思ひやる心盡しもかひなきに人まつ山とよしやきかれじ

〔平家物語<sup>十一</sup>〕大さかごえの事

明十八日のとらのこくに、さぬきの國引田と云所に落付て、人馬のいきをぞやすめける、それよりしるとりにうのや打過々々、八島の城へぞよせ給ふ、

〔源平盛衰記<sup>四十三</sup>〕湛増同意源氏附平家志度道場詣并成直降人事

屋島ノ渚ヲ漕出テ、鹽ニ引レ浪ニ諍、何ヲ指トハナケレ共、風ニ任動引コソ悲ケレ、先帝○安ヲ奉始テ、女院二位殿女房男房宗徒ノ人々ハ、讚岐志度ヘゾ御座ケル、

〔南海通紀<sup>二十</sup>〕香西藤尾八幡宮記

世俗ノ諺ニ曰、一ニ香西、二ニ鴨部ガ善ヒ、遂テ成マイ志度ガヨイト諷シハ、國中一ノ津ト云事ニヤ、鴨部ハ安富氏ガ居城ナリ、志度ハ領主ノ居所ニ有ラザレバ、遂テ繁昌ハスマジトナレドモ、能キ浦也トカヤ、